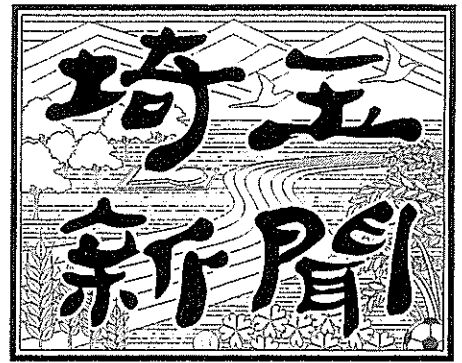




2017年 8月4日 金曜日
(平成29年)

きょうは何の日

橋の日、箸の日、首都高速
埼玉新都心線の新都心～さ
いたま見沼間開通(2006年)



埼玉新聞社 〒331-8686 さいたま市
北区吉野町2-282-3
本社代表 048-795-9930

知・技の創造

▷28◁

■調査研究

歴史的建造物の保存再生を担う私共の信念は、「全ての真実は現場にある」という一言に尽きる。確かに最低限の専門的技術要素は、机上の学術に身についておく必要はあるが、実際は実践の中で目の当たりとする建物との対話能力が重要となる。

そのためにはまず、現状を把握するための各種調査が必要となるが、床下・小規模・屋根上と真つ黒に汚れながらも、丁寧かつ敏速に膨大な調査を取り、それを整理して図

面化や耐震補強の判断材料などしなければならぬ。

横山晋一 建設学科教授

歴史的建造物の保存再生



能な限りのその建物の特質を生かした修復方針の提案が行われる。

■教育活動

ものづくり大学の特徴的な

ながら、創建当初の姿を突き止めていくことになる。

このような地道な調査研究成果を基に、建物所有者の意向を踏まえて歴史的建造物の保存再生手法を検討し、可

ながら、創建当初の姿を突き止めていくことになる。

このような地道な調査研究成果を基に、建物所有者の意向を踏まえて歴史的建造物の保存再生手法を検討し、可

よちましんいち 横山晋一 建設学科教授

博士(工学)。財団法人文化財建造物保存技術協会立教大学を経て、2005年より現職。専門は日本建築史、文化財建造物保存修復学。埼玉新聞社から旧成田領に残る歴史遺産を出版し、歴史文化を新たな視点で評価を行い、地方都市の活性化に貢献。

せ、実社会に即座に対応できる人材を輩出していることで、また、解体修理が行われる

私の文化財建造物修復学研 歴史的建造物の現場には、可

ており、プロの富大工たちが実践する判断や段取りの手際を、自身の目を通して理解させている。

振り返れば既に、学部生・院生を合わせて100名近くが当研究室に所属し、社会に

で実践的な厳しい研究を迫り、その大半が今

第一線で踏ん張り、社会に貢献している。

■地方都市の再生

地方都市の人口減少が続く中で、早急な課題は、その地域に点在する歴史遺産を再認識し、この財産をいかに生か

識し、この財産をいかに生かしていかかが重要な鍵となる。また、これらを統合させ、面として見せていくためには、歴史的建造物をランドマ

研究室に「連絡を賜りたい。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-795-9161 FAX 048-653-9040
keizai@saitama-np.co.jp